

## 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

**【事務事業の基本的事項】**

事務事業名	台湾修学旅行誘致促進事業			
担当課係名	農山村体験デザイン室 課	係	作成者	高倉正人
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち		
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし		
	主要施策	観光客受入体制の整備		
予 算 費 目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目 観光費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規/継続の区分		新規
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	なし			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input type="checkbox"/> 直 営 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 (一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託 (全部) <input type="checkbox"/> 補 助			

**【事務事業の実施内容】**

事業の対象 (誰のため・何を)	学生 (主に高校生)
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	国内教育旅行のオフシーズンに、台湾からの修学旅行誘致を図る。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	台湾における教育旅行の誘致PR活動と受入の連絡調整。

**【事務事業の推移】**

項 目		単 位	23年度実績	24年度実績		
			23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)		
効果	活動指標	旅行会社・学校訪問数	目標 校	30		
			実績 校	42		
			達成度 %	140.0%		
	成果指標	教育旅行受入れ学校数	目標 校	1		
			実績 校	1		
			達成度 %	100.0%		
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)		—	—	1,321	
	人 件 費 (B)		—	—	10,358	
	職 員 数		—	—	1.25	
	職員平均人件費		—	—	8,286	
	(A) + (B) 投下コスト		—	—	11,679	
	財源内訳	国 庫 支 出 金		—	—	0
		県 支 出 金		—	—	0
		地 方 債		—	—	0
		そ の 他		—	—	0
		一 般 財 源		—	—	11,679
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	—	278,071	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	—	397	

**【事務事業の今までの成果】**

平成24年度開始事業。6月と11月に台湾へ出向き、日本政府観光局主催の現地説明会に参加した。さらに台湾滞在中には、学校訪問を実施し、仙北市への誘致PRに努めた。その後、6月の現地説明会で個別相談した台北市内の学校から旅行会社を通じて連絡があり、早々に11月の修学旅行が実現した。県内では、誘致活動による台湾からの修学旅行は初めてであり、平成25年度に向けた目標校を3校に増やすことにより予算化した。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	台湾の現地説明会には、県の担当者とともに参加している。また、説明会終了後には、現地通訳の方と学校訪問し、誘致活動を行った。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	国内教育旅行のオフシーズンの受け入れとなるので、宿泊施設や受入農家にとっても、所得向上の一助になっている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	今後、国内はもとより国外多くの学生に訪れていただくため、継続的に誘致活動を図るとともに、学校間交流や体験メニューの内容についても充実させたい。また、受入を通じた際、農家民宿では通訳などの手配も必要であると感じたので、お互いが安心して交流を図れるような体制を整えていきたい。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

台湾の現地説明会に参加し、学校訪問するなど、積極的に誘致活動を展開していきたい。また、仙北市へ修学旅行で訪れた学校との交流も継続しつつ、新規の学校の誘致についても力を入れたい。台湾の修学旅行は、ホームステイや学校間交流のニーズが高く、スキー体験を希望する学校なども多いことから、仙北市では期待に応えられるだけの基盤がしっかりしていると認識している。今後は秋田までのアクセス面をいかに克服するか、モデルコースなどを複数提案し、誘致を実現していきたい。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 1	国内教育旅行の誘致活動にも力をいれ、受入体制の更なる整備が必要であると考えます。

